

「ふわカフェ」報告

上田真央

ジェンダー研究センター 研究所助手/準研究員

はじめに

CGSでは「ジェンダー・セクシュアリティに関して”ふわっと”話せる場がほしい」という学生からの要望に応える形で、2012年12月から学期期間中に毎月1回のペースで「ふわカフェ」を開催してきました。この新たな取り組みである「ふわカフェ」について、ここでは発案者の一人である筆者が、もう一人の発案者である李田光（2012～2013年度CGS研究所助手）の報告¹を参照しながら、これまでとこれからについて考察します。

「ふわカフェ」ってなに？

CGSは開設当初より、4月と9月の入学式の時期に合わせ、新入生を含むICU構成員にCGSやジェンダー・セクシュアリティ研究メジャーを紹介する機会として、ティーパーティーを開催してきました。しかしこのティーパーティーは、いわばCGSが自己紹介をする機会であり、学生が自分のことを思うように話すことを促す場ではありません。「セクシュアリティにちょっと悩みや違和感があるけれど、なかなか自分のことが話せない」、「悩みをうまく言葉にできない」といった学生の声を聴くことは少なくないため、自分のことを安心して話せる場が必要なのではないか、と感じることが多々ありました。また発案者自身も、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーといった言葉では自分を表現しきれなかったり、いわゆる既存の”コミュニティ”の集まりに参加しても、そこが自分の居場所では必ずしもないように思えたりするなど、明確に言葉にしづらいような違和感や、行き場のない”もやもや”とした感覚を抱えてきており、このようなことについて話し合い、受容できるようになる場をつくりたいと考えていました。これらの学生の要望と発案者の思いが重なり、「ふわカフェ」が始まることになりました。

「ふわカフェ」のコンセプトはRainbow Action²の「ゆるカフェ」、「かもカフェ」を参考にしています。「ふわカフェ」の「ふわ」は、言葉にすることが

難しいジェンダー・セクシュアリティにまつわる違和感や揺らぎのことを念頭に置いた表現になっています。「ふわカフェ」は、「同性が好きかもしれない」、「男女両方が好きかもしれない」、「自分は恋愛とか興味がない」、「いまの身体は女性だけど、男性として見られたい」、「いまの身体は男性だけど、女性として見られたい」、「性別で自分のことを決めつけられたくない」、「自分の性の在り方をひとつに決めつけたくない」…または、これらには当てはまらないけれど、気になること、話してみたいことがあるという人たちを対象にしており、そんなジェンダーやセクシュアリティのことをみんなで“ふわっと”おしゃべりできる空間を参加者と一緒につけてきました。

これまでの「ふわカフェ」について

2013年度は筆者と壺田光の2名が、2014年度は筆者と加藤悠二（CGS 事務局長）が世話人（ファシリテーター）として運営を担当してきました。当初は「ゆるカフェ」「かもカフェ」同様、フリートーク形式で参加者に自由に話してもらうことを考えていましたが、単純な世間話が多くなってしまったり、話を切り出すことが苦手な参加者が発言できず、世話人を含むジェンダー・セクシュアリティの話題に関して普段から話し慣れている人の発話中心になってしまったりと、意図していなかったかたちで会が進行されることが続きました。その反省から、4回目より実験的にトークテーマを導入しました。その結果、「ふわカフェ」の場合テーマを設定することで世話人の負担が軽減されるだけでなく、参加者がよりジェンダー・セクシュアリティの話題に集中して話することができることが分かりました。そのため、第6回目以降はトークテーマを設定する方向で開催しています。

Table 1

開催日	テーマ	参加者数
2012.12.13 (木)	フリートーク	12
2013.1.25 (金)	フリートーク	14
2013.2.25 (月)	フリートーク	6
2013.4.30 (火)	今学期、なんとかやっていけそう？	30
2013.5.27 (月)	フリートーク	5
2013.6.12 (火)	つきあうって、なに？	12

2013.8.17 (土)	ジェンダー・セクシュアリティ研究	3
2013.9.24 (火)	留学どうだった?	8
2013.10.21 (月)	カミングアウト	10
2013.11.8 (金)	就活/働くこと	6
2013.12.18 (水)	研究と進学	6
2014.1.20 (月)	就活とジェンダー	20
2014.2.4 (金)	出張ふわかフェ@外大 (海外事情研究所)	9
2014.2.19 (水)	好きってなに?	8
2014.4.18 (金)	女/男らしさってなに?	14
2014.5.19 (月)	宗教とジェンダー・セクシュアリティ	28
2014.6.4 (水)	スキってなに?	20
2014.9.24 (水)	自分のからだを考える	7
2014.10.20 (月)	カミングアウト	14
2014.11.4 (火)	トモダチってなに?	12
2014.12.12 (金)	就活とジェンダー	11

「ふわかフェ」の運営・進行方法に関しては、事前打ち合わせのほか、閉会後に世話人同士で反省会を行っています。また、第17回目からはクロズド・エンドとオープン・エンドのアンケートを実施するなど、参加者からのフィードバックをもらうことで運営の改善を図っています。

2015年1月現在の運営としては、参加者が安心して過ごせる場になるよう、開始時間をCGSが閉室した後の18時半から21時までで設定し、進行役として世話人を2名置いています。気軽に立ち寄れる場にしたいため、予約制度や参加費は設けず、開催時間中は自由に出入りができるようにしています。また、より多くの方がアクセスできるように、時間帯は固定ではありますが、開催する曜日を毎月変えています。参加者には、「今日よばれた名前」が記入できるネームカードとグランドルール(今日のおやくそく)³を入口で配布しています。グランドルールは開会時をはじめ、新たに参加者が来たときや、トイレ休憩の時間の後などにも繰り返し読み合わせをすることで、参加者にリマインドを促したり、会話に一息をつく機会としています。2015年1月現在使用しているグランドルールは添付資料をご参照ください。

グランドルールを確認した後は、アイス・ブレイキングを兼ねた簡単な自己紹介の時間を設けています。お題は「今日呼ばれた名前」と「今この瞬間のキモチ」で、後者については「今日のふわかフェで話したいこと」に限らず、

グランドルール



グランドルール

(今日のおやくそく)

1. 今日のお話は、ここだけのお話

ふだんは話しづらいことを話せる雰囲気を作りたいので、今日ここで聞いた話は、ここだけのお話に留めておいてください。「こんなイベントに参加したんだよ!」ということはどうしてもシェアしたい場合は、個人名や個人情報を出さないように、気をつけてください。

2. ここにはさまざまな人がいることを忘れず、否定をしない

ふわカフェに集まる人は、さまざまな価値観(恋愛観、セクシュアリティ、ジェンダー、それぞれの課題など)を持っています。お互いを尊重し合えるような話し方を心がけ、ほかの人の気持ちや心、在り方を否定ないようにしましょう。

また、セクシュアリティは見た目や振る舞いで判断することはできません。お互い勝手にレッテルを貼らないように、気をつけましょう。

3. 言いつばなし、聞きつばなし

個々人の体験はその人だけのものです。相手の話を聴くことも、自分を知ることにつながります。必ず誰かが同意をするなどの反応をしなければならない、ということはありません。アドバイスは、特に求められたときだけに留めましょう。

4. 話したくないことは話さない、話せなかったことで諦めない

話したくない話題のときには、無理に話をしないで大丈夫。答えを求められたときには断ってよいですし、無理に他の人から答えを求めることも控えるようにしましょう。

また、本当は話したかったことが、どうしても話せなかった、ということもあるかもしれません。今日話せなかったことも、次回は話せるかもしれませんから、今日話せなかったからといって、諦めたり、自分を責めたりしないようにしましょう。

5. 一度に話すのは、ひとりだけ。

活発なディスカッションも楽しいけれど、今回のふわカフェでは、「一度に話すのは、ひとりだけ。」というルールにチャレンジしてみたいと思います。話しているひとが満足できるまで、他のひとは一生懸命聞きましょう。普段の会話とは違うカタチのコミュニケーションになりますが、その分、新しく見えるものがあるかもしれません。

参考：虹色ダイバーシティ <http://www.nijirodiversity.jp/>

『キリストの風』集會 <http://homepage3.nifty.com/christ-kaze/>

NPO法人発達障害をもつ大人の会(DDAC)、2013、「大人の発達障害生活ガイドブック2013

～セルフヘルプグループをつくらう!～」

関西ほっとサロン <http://achhd-west.net/>

2013.5.27. 初版/2015.4.1. 改訂



名札



「おながが空いた」、「緊張している」、「試験の息抜きに参加した」などを一言ずつ話してもらっています。また、グランドルール1番「今日のお話は、ここだけのお話」を徹底する意味と、会を通して新たに出てきた“もやもや”や、引きずってしまいそうな感覚をいったん置いて帰ってもらいたいという思いから、会の終わりにも一言ずつ「今この瞬間のキモチ」をシェアもらうようにしています。また、「話をしたそうだけど、切り出せないのかな?」と思われた参加者がいた場合には、閉会後にそれとなく話をかけてみたり、世話人の在室日を伝えたりしています。

広報活動は、オープンキャンパスや新入生へ配布される資料への封入、学内ポータル（電子掲示板）上の告知、学内におけるポスターの掲示、CGS Online や facebook ページ、twitter などでの情報発信で行っています。

効果

参加者数は開催日やテーマにより変動が見られますが、毎月5～20名ほどの参加者が集まります。CGSを日頃から利用している参加者だけではなく、各種広報やSNS上を含めた口コミを通じて、学内外からもご参加頂いています。固定参加者数は回を重ねるごとに増えています。ほぼ毎回、初参加の人、こ

れがCGSに足を運ぶ初めての機会になった人がみられています。CGSは、ジェンダー・セクシュアリティについて安心して話すことができる場所として認識・利用してくださる方がいる一方で、これまで様々な理由から足を運ぶことがためられるといった声も聴いてきました。「ふわカフェ」は、そのようなためらいを緩和し、これまでCGSに来られなかった人たちも想いを語るができる場になりつつあるのではないのでしょうか。実際に参加者の中には、「同じ思いをしている人がいる」、「自分だけじゃないんだ」、「この感情はこういうことだったんだ」といった気づきがある人たちや、「いろんな視点があるんだ」、「自分の思いを否定しなくてもいいんだ」、「自分の気持ちを話してもいいのかな」と思えるようになったという人たちがいます。こうした反響は運営をしていてとても嬉しく思います。

しかし、たくさんの方が参加してくれることを嬉しく思う反面、参加者数の増加に伴い安心して話せる環境が確保しづらくなってきている、という課題も表出しています。会場となるCGSの収容人数の問題、それぞれが発言しやすい人数の問題から、現状の運営方法では10名程度が適切な参加者数ではないかということが、アンケート結果からもみえてきています。

また、世話人自身が思い入れのあるテーマの際によく起こりがちなのですが、参加者それぞれが安心して話すことができる雰囲気確保できず、反省することもありました。「もやもや」を言葉にすることで、かえって自分が傷ついてしまうかもしれない「他の人にどう受け止められるのか分からない」など、語ることへの不安があるなかで、どうしたらより安心して話すことができる空間をつくれるのかについては、回を重ねても常に大きな課題として残されています。

これからの「ふわカフェ」について

前節で検討した課題について、参加者の増加への対応としては、「同テーマで月に2回開催する」「予約制の少人数開催のイベントを別途開催する」などの案が、アンケートへの回答からも出てきています。スケジュールの都合もあり、これらのアイディアは未だ実施できていませんが、2015年度以降に試験的に実施したいと考えています。

また、今後の課題として、世話人の代替わりについても考えていく必要があります。「ふわかフェ」を担当する世話人たちは、ファシリテートをするための特別なトレーニングを受けてきたわけではありません。どのように場を作っていくのか、グランドルールに反する発言にどう対応するのかなど、手探りで運営をしてきました。世話人が変わることでの場の雰囲気がある程度変わってしまうことは否めませんし、それぞれの世話人が手探りをし続けることも必要であるとも考えられるため、マニュアルのようなものが作れるかはわかりません。しかし、「ふわかフェ」のコンセプトを引継いだ場をスムーズに受け渡していけるように、運営に関わってきた世話人たちのこれまでの経験を今後何らかの形で共有していきたいと思います。引継ぎのために用意する資料は、何らかの形で学内外に広く共有したいと考えています。「ふわかフェ」は“CGSだからできる”ということではない、と感じています。2014年2月に、東京外国語大学で開催した「出張ふわかフェ@外大」では、参加者から継続開催に関して大きな期待が寄せられています。また、「ふわかフェ」のような場をつくりたいという思いから、他大学の教職員や学生が話を聞きに来てくれたこともありました。ジェンダー・セクシュアリティに関して話せる場が増えてほしい、「ふわかフェ」のような場が増えてほしい、「私たちにもできるんだ!」と、背中を押すきっかけになりたい、という気持ちを込めながら、資料を作っていきたいです。

筆者自身、いつまで続けていけるか正直わからない面もありますが、この場を必要とする人たちがいる限り、「ふわかフェ」を続けていきたいし、続けていって欲しいと考えています。

註

- ¹ CGS Newsletter #17: ICUのなかで、想いを語る場をつくる『「ふわカフェ」で「もやもや」を語る、ということ』参照
- ² Rainbow Action (<http://rainbowaction.blog.fc2.com/>)
- ³ 「ふわカフェ」グランドルールはさまざまな当事者グループのピアミーティングにおけるグランドルール等を参考に作成している。参考文献はグランドルールに記載。

Report on "Fuwa Café" (Casual Café)

Habiba-Mao UEDA

Research Institute Assistant/Associate Research Fellow, CGS

Intro

Since December 2012, CGS has held "Fuwa Café (Casual Cafe)" once a month during semesters, in response to student requests for a space to casually talk about gender and sexuality.

What is "Fuwa Café?"

The concept for "Fuwa Café" was borrowed from Rainbow Action's¹ various café events, such as "Yuru Café" and "Kamo Café." The expression "fuwa" (soft, relaxed, light) was chosen while keeping in mind the discomfort or fluctuation that surrounds gender and sexuality, which is often not easily put into words. "Fuwa Café" was created as a space to casually chat about gender and sexuality, particularly for those who have felt the following: "I might be attracted to people of the same sex;" "I might be attracted to both men and women;" "I'm not interested in romance;" "I have a woman's body, but I want to be seen as a man;" "I have a man's body, but I want to be seen as a woman;" "I don't want others to judge me based on my gender;" "I don't want to put a label on my sexual identity." The café also welcomes those who may have something on their mind, or who want to talk about feelings other than the ones mentioned.

Managing "Fuwa Café"

As of January 2015, "Fuwa Café" is run as follows: to create a safe, comfortable space for participants, the café is held from 6:30pm until 9:00pm (after CGS has closed), and two facilitators are placed as discussion coordinators. In order to encourage casual participation, we have chosen not to implement a reservation system or a participation fee, and

participants are allowed to enter and leave freely during café hours. Additionally, while the café hours are fixed, the day of the week on which the event is held changes every month so that more people can participate. Name cards on which participants can write the name they want to be called by and ground rules² are distributed at the entrance. The ground rules are read aloud at the beginning of the event, whenever a new person joins, after restroom breaks, etc. in order to remind participants of the rules and to provide a break from the discussion.

Outcome

The number of participants changes depending on the day or theme, but generally 5-20 people participate every month. These numbers include people who utilize CGS on a daily basis, as well as people from inside and outside of ICU who learned of the event through advertisements or SNS. The number of regular participants increases with each session, and nearly every time there is a new participant, making "Fuwa Café" the reason behind some people's first visit to CGS.

The Future of "Fuwa Café"

One of the future assignments for "Fuwa Café" is to raise the next round of facilitators. We intend on making the materials used to instruct successive generations of helpers widely accessible inside and outside of the university. Our desire is that the number of spaces where people can talk about gender and sexuality will increase—that places like "Fuwa Café" will continue to grow in number. Therefore, we plan on creating the materials with the hope that they will push others to form similar spaces.

Footnote

- ¹ Rainbow Action (<http://rainbowaction.blog.fc2.com>)
- ² The ground rules of "Fuwa Café" are created by referencing the ground rules used in peer meetings of self-help groups. A reference list is included in the ground rules document.

